

今月の谷口雅春先生のお言葉

「これはできる」を
「貫き通す」こと

「心を変えない」とはどんなこと

「心を変えない」とは、「心」に「ペン」「これはできる」と思ったことは、それを「貫き通す」まで、いついつまでも「これはできる」と心に描いた考えを捨てないことです。何でも心の中に「これはできる」と心に画を描くように思い浮べた考えが、やがて形になってこの世の中にあらわれてくるのですから、「これはできる」と一旦きめた考えを捨てなければ、それは必ずできるのです。

（『人生読本』 307頁）



「これはできる」と「運が悪い」ということ

「そんなこと位は初めから知っていた。だから私は『これをしよう』と思っただけでも心を変えずにやってきましたが、やっぱり運が悪いことに変わりはない」とお考えになる人もあります。けれども、そうおっしゃるあなたの考え方は、私の考え方とたいへん異なります。私は「これはできる」という考えをいつまでも捨てないで貫き通すことが「精神一到」だと申しました。ところがあなたは「これをしよう」という考えはいつまでも捨てず

に「運が悪い」と言われます。あなたの考えと私の考えとがどれだけ異うか、太い活字で書いたところを比べてください。

私は「これはできる」という考えを捨てるなど申しました。

あなたは「これをしよう……しかしできぬ、運が悪い」と言っているのです。

「運が悪い」とあなたがおっしゃるのは、「これはできぬ」という考えが混っているのです。私の言う「これはできぬ」という考えとはまるきり反対ではありませんか。

（『人生読本』 308～309頁）

試験にパスしない理由

「これはできる」という考えの中には、「できる」という考えのほかに何にも混ぜ物がありますが、「これをしよう」という考えの中には、「これをしよう、しかしできないかも知れない」という考えが混っているものな



のです。「これをしよう」と考えるだけの「精神一到」

では必ずしも成功しないのは当り前です。入学試験に行く人たちは皆「この試験にパスしよう」と思っ

て行くのです。しかし、皆が皆まで試験にパスしないのは、

「パスしよう」という考えはあっても、「パスできる」と

本当に信じている人が少ないからです。「しよう」とか

「成ろう」とかいう考えよりも、「できる」とか「成る」

とかいう考えの方が力が強いのです。（『人生読本』 309頁）

「成ろう」と「成れる」との違い

誰でも偉い者に「成ろう」とは思うのですが、そのう

ちの極わずかな人だけしか偉くなれないのは「成ろう」と

と思う考えは捨てないくせに、「成れる」という考えを

何時の間にか捨ててしまいますからです。そしていつの間に

かそんな人は、

「成ろうと思うけれども成れぬ」と言うのです。そして、

そういう人はとうとう偉い者には成れぬのです。

これで「成ろう」と「成れる」との相異が判ったであ
りましょう。
（『人生読本』310頁）

成功の秘訣

皆さん成功の秘訣も、立身出世の秘訣もここにある
のです。「精神一到」とは、どこどこ迄も、ただ成れる
——成れるで突き貫すことです。

「心」で「成れる」と信じたときには、心のフィルム
ではすでにそう成っているのです。心のフィルムに描
かれたことは必ず活動写真（編註・映画のこと）に映し出
されるように、この世の中に本当に出てくるのです。
しかし、自分がこうあって欲しいことがまだ本当に出
て来ないうちに、「成れる」という考えを捨ててしまっ
て、「成れぬ」という考えにいつの間にか成ってしまっ
たら、その「成れぬ」という考えがこの世に出てくる
のですから、運は悪くなるのは当然です。

（『人生読本』310～311頁）



「なれる」と思うものになれる

仕事の時でも試験の時でも、まず最初に心の中
で「神様と一緒にさせていただきましますから必ずよくできる」
と五、六ぺん称えてから、本当に神様と一緒にいるつも
りでおれば必ずよくできるのです。「できる」という言
葉を常にとなえているようにすれば、常に「できる」と
いう心になり、その心は必ず形にあらわれて、本当にで
きるようになるのです。

人間は、なりたいたいものになれるのではなく、なれると
思うものになれるのです。

人間は、しようと思うものが必ずしもできるのではな
く、できると思うものが必ずできるのです。運がよくな
り、偉くなり、達者になり、立身出世できるようにな
るには、精神の生かし方を知らねばなりません。

（『人生読本』317頁）